



そしん

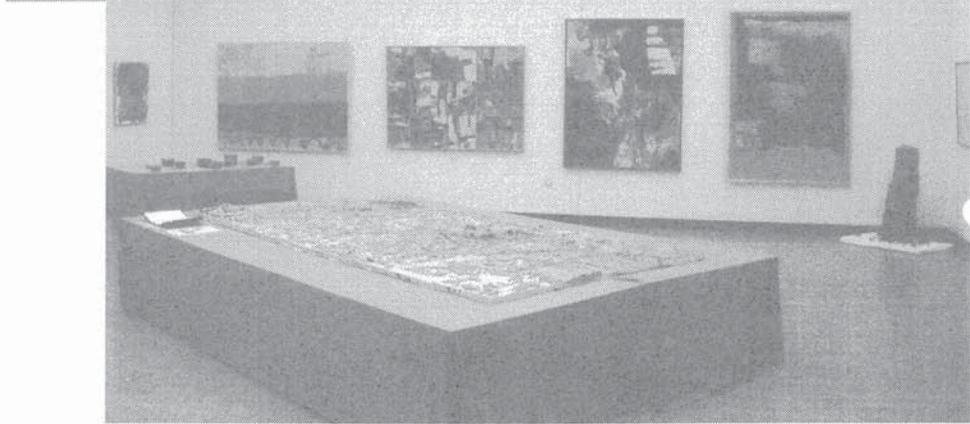
第39号



発行/社会福祉法人 素心会
 責任者/事務局長 片平 憲司
 〒259-0103
 神奈川県中部大磯町虫窪 39 番地 1
 TEL.0463-71-1255
 レイアウト・印刷 貴峯荘ワークピア



心創展 開催!



(素心学院リーダー 西垣)

素心学院は昨年新しい建物へ引越し、新たな一歩を歩みだしました。
 そして私自身も結婚し、十一月には長男が産まれ、幸せの第一歩を歩んでいます。この先どんな道のりを共に歩いて行こうか、親として何を伝えられるか日々考えています。ただ願うことは、これから出会うすべての人に、言葉や宗教に違いがあっても、障害があっても、心を開く人になって欲しい。それらの人々との関わりの中で幸せを感じて生きていって欲しい。そして、我が子自身も広い心で他者に受け入れられるように願っています。

たとえ制度がこの先変わろうとも、変わらぬ情熱を持って素心が歩む力になりたい。そんな親の背中を見せることで、我が子にこの気持ちを伝えることができるだろうか。

虫窪24番地

むしくぼ (MUSHUKUBO) パンチ

理事会評議員会の動き

第二回評議員会

平成十七年三月十九日(土)
 一 事務所移転等に伴う定款の一部改正を承認。
 二 平成十六年度第四次補正予算を承認。

三 素心デイセンターの定員五十人から六十人への増員を承認。
 四 平成十七年度事業計画を承認。

五 平成十七年度予算を承認。

第一四一回理事会

平成十七年三月十九日(土)
 一 事務所移転等に伴う定款の一部改正を承認。
 二 平成十六年度第四次補正予算を承認。

三 素心デイセンターの定員五十人から六十人への増員を承認。
 四 平成十七年度事業計画を承認。
 五 平成十七年度予算を承認。

六 各事業における運営規程の制定を承認。
 七 平成十七年度第一次補正予算を承認。

第一四二回理事会

平成十七年五月二十八日(土)
 一 平成十六年度事業報告を承認。
 二 平成十六年度決算を承認。

三 就業規則の一部改正を承認。
 四 育児休暇規程、介護休業規程の一部改正を承認。
 五 役員報酬等に関する規程の一部改正を承認。
 六 各事業における運営規程の制定を承認。
 七 平成十七年度第一次補正予算を承認。

第一四三回理事会

平成十七年十月八日(土)
 一 児童デイサービス事業の開始を承認。
 二 組織・職務権限規程の一部改正を承認。
 三 就業規則の一部改正を承認。
 四 育児休暇規程、介護休業規程の一部改正を承認。
 五 役員報酬等に関する規程の一部改正を承認。
 六 各事業における運営規程の制定を承認。
 七 平成十七年度第一次補正予算を承認。

八 給食業務の見直し、業務委託先業者の変更を報告。
 九 近藤弘監事の後任として古谷俊幸監事を選任。
 十 平成十八年度事業計画・予算を承認。
 十一 非常勤職員就職規則の一部改正を承認。
 十二 社会福祉法人等による利用者負担軽減の実施を承認。
 十三 指定障害福祉サービスの主たる対象者に係る障害種別の特

第一四四回理事会

平成十八年三月十八日(土)
 一 児童デイサービス事業開始に伴う定款の一部改正を承認。
 二 平成十八年度事業計画・予算を承認。
 三 非常勤職員就職規則の一部改正を承認。
 四 社会福祉法人等による利用者負担軽減の実施を承認。
 五 指定障害福祉サービスの主たる対象者に係る障害種別の特

後援会会員募集

〇会費は個人-□、年1,000円
 法人・団体-□、年10,000円
 〇会員には、新聞「そしん」をお送りします。
 〇行事のご案内などをします。
 会費の納入先
 銀行振込は
 中南信用金庫本店 011-0350220
 郵便振替はどこの郵便局でも
 00270-0-19507 です。
 □座名は
 社会福祉法人素心会後援会
 会長 鈴野七郎
 ※新しく会員になる方はご住所を電話等で
 知らせていただくようお願いいたします。

事務局
 〒259-0103
 神奈川県中部大磯町虫窪 39-1
 素心会後援会
 TEL.0463-71-1255
 FAX.0463-73-0009

素心学院		TEL	0463 (71) 1255
神奈川県中部大磯町虫窪 39-1	E-mail: gakuin@mhs.cn-net.ne.jp	FAX	0463 (73) 0009
素心デイセンター		TEL	0463 (71) 1256
神奈川県中部大磯町虫窪 39-1	E-mail: sosin-do@mhs.cn-net.ne.jp	FAX	0463 (71) 1284
さざんかホーム		TEL/FAX	0463 (61) 1519
神奈川県中部大磯町国府本郷 1308			
つばきホーム		TEL/FAX	0463 (71) 0990
神奈川県中部大磯町国府新街 482-1			
地域支援センター		TEL	0463 (70) 3577
神奈川県中部大磯町国府新街 521-5	そしん	FAX	0463 (72) 2577
そしん	E-mail: cmt@mhs.cn-net.ne.jp		

定を承認。
 六 各事業の運営規程の一部改正を承認。
 七 近藤弘監事の後任として古谷俊幸監事を選任。
 八 給食業務の見直し、業務委託先業者の変更を報告。
 九 平成十八年五月二十日(土)の第七回評議員会及び第一四四回理事会の報告につきましては、次号に掲載します。

なお、平成十八年五月二十日(土)の第七回評議員会及び第一四四回理事会の報告につきましては、次号に掲載します。



家族ペンリレー 二十歳・二十年の月日



三浦 悠生さん

歩き始めたのは、一歳半。歩く事が楽しいのか靴を履いて外に出れば、小走りで自分の行きたい方へ行く。公園で遊ぶ事もなく、毎日歩く事が、あなたの遊び？だったかな。その後をずっとついて歩く。「多動」だから手をつないで、季節を楽しんで散歩する。ことはなかつたね。あなたが、私の

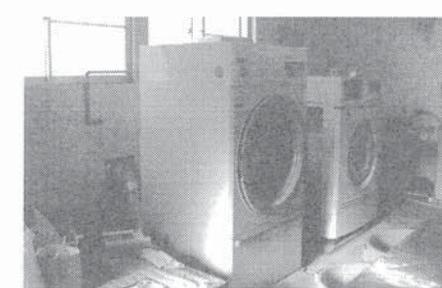
手を取ってくれたのは、四歳になった頃でした。ものすごく小さな手ではないけれど、私を牽いで、のばした手の温かさを「親として認めてくれた」と感じた。嬉しい瞬間でした。発達に遅れがあるあなたの生活は家庭と訓練会・富士学園・養護学校と、年齢に応じた環境で過ごし、あなたの成長していく力もあつたでしょうが、その時に丁寧に接し、関わりを持って下さった、先生方や友達がいて、思いもよらない成長を引き出してくれた事は、良くも悪くも、驚きと喜びでした。学生生活を終え、進路として通所施設を希望し、素心デイセンターの雰囲気、あなたがあなたに合っているのではと思ひ、願ひ、受け入れていただき、一年目は、緊張や不安で、イラ

イラし、自傷や他害が毎日のようにあり、言葉のないあなたの気持ちのサインと思つても、どうしたら良いかと悩みましたが、二年目に入ると、その行為は少し減り、落ち着いてきたなと感じました。その中で、二十歳の誕生日や、成人を祝つて下さる日を迎えました。Yシャツやネクタイがきつと嫌がるからと、センターでの「成人を祝う会」には、いつもよりはちよつと気取つた感じで、ポロシャツにブレザーで出席しましたね。式の時、皆さんの前に座つたあなたが、自分の特別な日と感じ緊張しているのがわかりました。その時、服で成人を祝うわけではないけれど、もし着てくれなくても、スーツにYシャツ、ネクタイも揃えようと思ひました。別の成人の祝いに、Yシャツを着て父にネクタイを結んでもらうのも、嫌がることもなく、堂々と決めていました。あなたの成長を喜びながらも見落としていた部分があつた、ごめんなさい。

ご援助ありがとうございました



平成18年2月24日、日本財団様より129万円の助成金をいただき、補助ステップ付きのトヨタノアを購入いたしました。外出、ドライブ等の余暇の充実や通院者の対応など利用者の生活全般の支援と社会参加の促進に十分活用していきたいと考えています。この場をお借りしまして御礼申し上げます。ありがとうございました。



平成18年1月12日、社会福祉法人神奈川県共同募金会様より60万円の助成金をいただき、素心学院の利用者の衣類等の洗濯業務に欠かせない業務用乾燥機を購入いたしました。おかげをもちまして老朽化に伴う買い替えがスムーズに図れました。この場をお借りしまして御礼申し上げます。ありがとうございました。

素心学院

北海道旅行



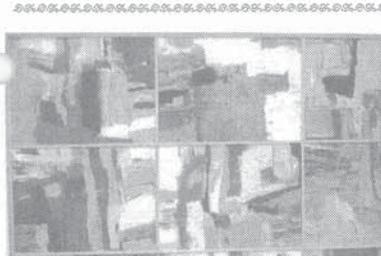
「当機はまもなく離陸いたします。」そして、地響きと共に重いエンジン音が増すにつれ、顔が強張る方、また、期待で笑顔になる方と十色で窓の外の景色よりも皆の表情に私の興味は奪われました。



ピンポイントとフザーの大会唱、警備員による金属探知機でのポデーチェックや一度開けたらなかなか閉まらないほど膨れ上がったいるかばんの中のチェック、少し離れた場所で見守ることしかできない私は欧米人に負けないほどのジェスチャーで利用者に何をやるのかを伝えることが精一杯、そんな私の焦る気持ちとは裏腹に警備員にポデーチェックなどをされる利用者は、すべてが初体験の出来事、満面の笑みで応えてくれました。



「当機はまもなく離陸いたします。」そして、地響きと共に重いエンジン音が増すにつれ、顔が強張る方、また、期待で笑顔になる方と十色で窓の外の景色よりも皆の表情に私の興味は奪われました。



第十五回 心創展



二月八日(土)日、平塚市美術館にて開催しました。五日間で四百六十人の方に来場していただきました。



昨年よりも広い会場に絵画、陶芸、書道の各クラブの作品を展示。また、旧学院女子寮二階のロビーの壁に飾られていた陶板も展示しました。すべての作品は利用者の方が伸び伸びと楽しまれて創つた作品です。来場した方より「温かい気持ちになりました。とても深いものを感じ、感銘を受けました」等、沢山の感想をいただきました。温かい心を備えているからこそ観る人の心を温かくさせる。素心の皆、スゴイ!!
素心学院リーダー 大塚

神奈川県民間社会福祉

「1週間や10日そこいらで、福祉の勉強をしようなんてどだ
い無理な話なんだから、肩の力を抜いていけよ。そうだな、僕が
若い時分旅に出る時に先輩から贈られた言葉を君にも贈ろう…」



パリ ホテルソフィテル

フォーラム リブ ゴーシユ
四日間を過ごしたパリでのホテルは中心街から

フランス パリ郊外
パリ市街を抜けて郊外に出るとそこは低所得者向けの高層アパートが連なる「治安のあまり芳しくない地域」になる。移民の多いその一角に視察先の老人ホームがあった。
軽食とどう酒で大歓迎され、担当者の話を聞く。「いらっしやいませ」と書かれた手作りのポスターに、彼等はいつたいたのくらしい残念な足早な見学は、そんなあなた達に値するものでしたか。別れの挨拶で握った女性の手は乾燥して温かかった。そしてフランス語で一言、通訳が笑顔で俺に言った。「あなたの未来に期待します、ですって。」

帰国 はじめの一步
パリ最終便で一〇日ぶりに帰国。二週間後、日本でパリ郊外での暴動が報じられた。以前なら読み飛ばす新聞記事に釘付けになる。そう、もう俺にはドイツもフランスも「何処か遠くの知らない国」ではなくなっている。海外研修無事終了。でも俺にはここから「初めの一步」だ。

パリ 市街
終日の自由行動。メトロに乗りオルセイ美術館に出かける。夕方、ホテルまで歩いて帰る事にした。パリ市街を自分の足で散策してみたいし、どのみちタクシーを使うほどの持ち合わせもない。この時期にしては例外的に晴天続きの暖かいパリの街を、ぶらぶらとホテルに向かって歩く。四〇分ほどの道程のはずだ。落ち葉と石畳を踏み、一街区ごとに別の街の様に変わる喧騒と静寂を楽しみながら、底抜けな開放感を味わう。ベンチに座り、コーヒーを飲み、煙草を吸う。そんな俺を誰も気にしない。いいじゃねえか、パリ!!
年配の、犬を連れた男性が通りかかった。精一杯の笑顔で声をかけた。
「へ、いっていいよ、いっていいよ」
一時間四〇分後、ホテル着。



「はーじめのいいーっば」だ。
「：外国に行ったら、人と土地とそして空を見て来い」そういつて送り出してくれた法人留守をしつかり守ってくれた同僚職員。そして何よりもこれだけの長期不在を許してくれた利用者から感謝したい。あなたたちのお陰で俺は貴重な「はじめの一步」を踏み出せました。次はもちろんあなた達の番です。…で、相談…ですが…俺の二歩目は…あり?

事業従事者等海外研修

ドイツ・フランス10日間の旅 (2005年10月12日~21日)

素心学院支援一課長 長谷川洋之

出発 成田空港

「アナタ、ナニシンドスカ?」
空海の喫煙所で煙草を吸っていると、横にいたメカネの金髪青年が片言の日本語で言った。「フライピン」と日本語で答えた。…まだ早すぎんどうろうよ…。

十三時間の果て

フランスまで片道十三時間の旅、窮屈な座席で目を瞑る。フランス人の客室乗務員が飲み物の提供を始める。乾燥しきつた機内。「水」困った顔。「水だよ水。うおーた」だ。肩をすくめる。面倒くさくさってワゴンから自分で取った。どうせならでかいヤツを…。
教訓。少々めんどくさくても辛抱強くコミュニケーションをとる事。でないと十三時間二リットルのなまめるい炭酸水と過す対価を払われる。



ドイツ フランクフルト

夏時間のドイツは午前八時でもまだ暗い。ホテルの窓から煙突掃除職人が見えた。彼は何年屋根の上にいるのか。何本の煙突を掃除してきたのか。そしてあの煙突の下には俺と同じ時間を生きるどんな人生を送るドイツの家族がいるのか。明るくなりかけた屋根の上で、彼の吸う煙草の煙までがはつきり見えた。

視察する側される側

ドイツでもフランスでも行政機関・民間団体問わず、視察される側は「視察を受け入れるプロ」だ。机には飲み物と軽食が用意され



製本された説明資料とスライド。広報専門の担当者がよどみなく説明をする中、視察する側である日本人の俺はシロウト丸出しで写真をとりまくって行く。「報告書」と目に見える「みなさんの思い出」の為に。
ドイツ ハイデルベルク ローテンブルク デインケルスピュール
中世からの石造りの町並みの中で、近代的な生活様式を構築しているドイツの人々。良くも悪しくも彼等の精神的支柱は「宗教」のようだ。「福祉」の概念さえ例外ではない。どの街の中心にも石畳の広場と象徴的な教会。
「あれ、あなたに似てるわねえ」教会の中、彼女の指差す方を見る。そこには次の冠をかぶった世界的に有名な男が十字架でうな垂れていた。
…いろいろな意味でいい度胸じゃねえか。

ペンリレー

素心学院

花澤美由紀さん



美由紀が静岡県清水市に生まれ、十一年、富士市の施設に入って十年過ぎました。生後一カ月前から思いがけないひきつけをおこしたり、病気をしたりと発達が遅れ、手さぐりで今まで育てて来ました。小さい時は少しでも良くなる様にと医者めぐりをしたり、障害者のためのお話があると飛んで聞きに行ったりしました。辛い事、悲しい事、沢山ありましたが美由紀のおかげですばらしい多くの人達に出会う事が出来、親自身が成長したようで感謝していません。親の会の方、養護学校の先生方、市福祉課の方、社協やボランティアの方々を支えられ、又皆と障害者のためにいろいろな行事を計画したりと、楽しんでりと一生懸命であった時が懐かしいです。養護学校卒業後、本人のために少しでも自立出来るよう入所を希望しました。ちょうど富士山が素晴らしい見える広い環境にある施設に入所出来、思いきり手離す



(母 花澤 玲子)

と云ったり、食欲も出て来て元気になりました。学院のやさしい先生方に支えられ温かい御指導のおかげと感謝しています。現在は土曜・日曜に家に帰れる事が楽しみのようにですが、又学院に帰る事も楽しみです。先生方の名前も覚え、帰る時は皆の名前を云いながら車に乗って帰ります。「またね」と云ってすぐ別れる事が出来るようになりました。素晴らしい素心学院へ入所出来、本当に良かったと思っています。又新しい建物が建設され、きれいな明るい環境で生活出来るようになり嬉しく思っています。障害者自立支援法等福祉のあり方が変化しつつありますが、どうかいつまでも素敵な心安ら、素心学院が長く続く事を願っています。

素心デイセンター 給食サービス

素心デイセンターが提供しているサービスの中で欠かせないのが給食です。デイセンターでの食事は素心学院同様、業務委託により提供しています。食事前に事前に食卓に配膳をして召し上がっていただく方とカウンターで食事を受け取って好みのテーブルでお食事される方がいます。メニューについては、当然栄養のバランスやカロリーに配慮したものになっていますが、食の楽しみにも工夫し週一回は選択メニューになっています。また、障害の状況に合わせて、おかずを食べやす、一口の大きさに切ったり、めん類等の主食が苦手な方には、好みに合わせて一飯を提供しています。また、食事を食べる環境については大勢が一緒に食事を食べるやかな食堂を好まない方には、別室で落ち着いて食事ができる環境を可能な範囲で、提供しています。



栄養士 斉藤さんの つぶやき

栄養満点で、皆さんに喜ばれる食事はなんだらうと毎日頭をひねっています。食堂で「おいしよ」と声をかけてもらった時、空になったお皿を見ると、とてもうれしです。

これからも皆さんに笑顔になつてもらえる給食を目指して、献立づくりをしていきます。リクエストもお待ちしています。

後援会活動報告

平成十七年十二月十八日(日)、役員をはじめ素心学院保護者会、素心デイセンター保護者会のご協力を得て、総勢十三名で素心会の環境整備を行いました。今回は作業棟、洗濯棟や倉庫の裏に素心会の歴史とともに長年放置されていた数々の不要な物を一掃しました。大変な作業でしたが、とてもきれいに片付きました。参加していただいた方々、ありがとうございました。(後援会事務局)



児童デイサービス 開始しました

昨年の十一月より大磯町国府新館で児童のデイサービスを開始しました。大磯町、二宮町の子どもたち(小学生以下)が通つてきています。建物も利用人数も小規模な事業ですが、小規模の利点を生かして一人一人に寄り添った支援を目指しています。



まだ生まれたばかりで上手に歩けないこともありませんが、未来が輝いている地域のことを意識して、両手で大事に育んでいきたいと思っています。

支援センター そしん
児童デイサービス
所長 萩原 勝己

訃報



金田浩重さん
享年五十七歳
素心学院利用者

平成十七年十一月二十二日、金田浩重さんがお亡くなりになりました。五十八歳の誕生日を目前にしての早過ぎる死でした。生前の金田さんは、大の野球ファンでナイターを観て声援を送り、バットスイングの真似をして「野球・野球」と言って大笑いをして、皆さんの笑顔を誘いおませてくれました。また、ボクシングの真似も得意で、両拳を構え、「ヤー」とばかりに小さな拳を私のお腹に向かって突き出し、私は倒れる真似をして、お互い大笑いをする。そんな明るく元気だった金田さんの姿が思い出されます。天国から学院の皆さんを見守っていてください。

心より、冥福をお祈り申し上げます。
素心学院 浦野



田代哲郎さん
享年六十二歳
元素心学院施設長
厚木精華園施設長
平成十五年監修褒章受章

田代さんは、素心は私の人生のものとおっしゃっていました。五十年の素心の歴史のうちの真ん中の三十年を作った方です。今も利用者や保護者の方々をはじめ素心に流れるやわらかくてあったかいものは田代さんが残していつてくれたものです。

平成十八年一月二十三日、田代さんは他界されました。あまりの突然に、今だに信じられません。残念で、残念でなりません。心より冥福をお祈り申し上げます。

素心学院施設長 萩原